

歴史・文化財

～いにしえ色に染まる、ときめきの時～

浪漫的薫りただよう、その名もゆかしい朝霞の里。

この地に人の痕跡が認められるのは、遙か昔、今から3万年以上も前のこと。人々は石器を手にも、黒目川や新河岸川流域などの台地のまわりでたくましく暮らし、ここに朝霞の原風景が広がっていました。

そして、漁や狩猟を行い、土器を用いた縄文時代を経て稲作が主流となった。

る弥生時代を迎えます。生産性の高まりとともに、古墳時代には豪族が出現しました。柊塚古墳は、そうした時代に造られました。平安時代の終わりごろ、このあたり一帯は「広沢郷」と呼ばれ、鎌倉時代を通じて広沢氏によって支配されていたようです。室町時代以降は太田氏や北条氏が覇権を争っていました。

泰平の世を迎え、豊かな文化が花開いた江戸時代。この地は、幕府直轄の「天領」と旗本の「知行地」として統治され、ことに膝折宿は江戸と川越を結ぶ川越街道の4番目の宿場として栄えました。そのにぎわいは、どれほどだったでしょうか。また、このあたりは東日本における伸銅工業発祥の地としても知られています。

文明開化もなかばの明治二十二年、近隣の村々が合併して「膝折村」と「内間木村」が生まれ、膝折村は昭和七年に朝霞町となり、同三十年には内間木村と合併しました。

そして昭和四十二年三月十五日、市制施行により朝霞市が誕生。遠い記憶をたどる時、歴史の浪漫とともに新しい未来が見えてくることでしょう。



①市指定有形文化財 絹本着色両界曼荼羅



②重要文化財 旧高橋家住宅



③県指定史跡 柊塚古墳



④市指定天然記念物 湧水代官水



⑥市指定有形文化財 奥住家文書



⑦市指定有形文化財

一夜塚古墳出土遺物



⑧市指定無形文化財 溝沼獅子舞



⑨県指定有形文化財 板石塔婆

朝霞市博物館

Asaka City Museum

考古・歴史・民俗・美術工芸の4分野から郷土朝霞を紹介する常設展示と企画展示を中心に、さまざまな講座・講演会や体験学習といった催しからなる“まなびとやすらぎの空間”です。



博物館外観



ギャラリー



膝折宿の様子（ジオラマ模型）



復元住居【古墳時代】（復元模型）



市内で出土した縄文土器



水車による伸銅一圧延一（復元模型）

①市指定有形文化財 絹本着色両界曼荼羅

宮戸の宝蔵寺に伝わる仏教絵画で、室町時代～江戸時代の制作と推定されています。胎蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅の二幅に、さまざまな仏や菩薩が極彩色で描かれ、周囲の表具は描き表装で仕上げられています。

②重要文化財 旧高橋家住宅

根岸台にある18世紀前半（江戸時代中期）の建築と推定される農家建築で、土壁に丈夫な格子窓を作り、部屋境に押板を造るなど、中世以来の古風な建築の特徴を残しています。建造物と畑を屋敷林と雑木林が取り囲み、武蔵野の農家景観の特徴を伝えていことから、敷地も重要文化財に指定されています。

③県指定史跡 柊塚古墳

6世紀前半の築造と推定される、全長72m、墳長66m、高さ8.5mの前方後円墳です。後円部の墳頂で主体部（埋葬施設）2基が確認され、当時の家屋を模した家形埴輪などが出土しています。柊塚古墳歴史広場として整備して公開しています。

④市指定天然記念物 湧水代官水

地域で「代官水」と呼ばれる自然湧水で、古くから灌漑用水などに利用されてきました。武蔵野台地の縁辺に湧き出す湧水で、朝霞市をとりまく自然環境の特徴を示すものの1つです。周囲の斜面林には、貴重な動植物の生息が見られます。

⑤市指定有形文化財 町名改称許可書

昭和7年（1932）に膝折村が町制施行する際に、当地へ移転計画のあった東京ゴルフ倶楽部の名誉総裁 朝香宮鳩彦王の名前にちなんだ町名とすることを照会した際の回答文書です。新町名を「朝霞」とすることを許可したもので、朝霞市の名称の起源となる記念すべき資料です。

⑥市指定有形文化財 奥住家文書

膝折地区で江戸時代から伸銅業を営んできた奥住家に伝わっていた文書です。当時、黒目川を利用して盛んに行われていた水車稼働や伸銅業に関するものがほとんどで、特に伸銅創業に関する資料は他に例をみない貴重なものです。

⑦市指定有形文化財 一夜塚古墳出土遺物

昭和18年（1943）に朝霞第二小学校の敷地拡張に伴い削平された一夜塚古墳から出土した銅鏡、武具、馬具、埴輪などの遺物です。朝霞市の古墳時代を代表する遺物であり、埼玉県古墳時代を語る上でも貴重な資料です。

⑧市指定無形文化財 溝沼獅子舞

春と秋の年2回舞われる獅子舞で、大獅子、中獅子、女獅子の3匹の獅子が、地域の安全や悪疫退散を願って舞います。江戸時代初期から伝わると言われ、現在は主に溝沼の氷川神社で行われています。溝沼獅子舞保存会のみなさんにより保存・継承されています。

⑨県指定有形文化財 板石塔婆

正安3年（1301）の銘がある、非常に珍しい双式の板石塔婆です。梵字で表現された不動曼荼羅と五輪塔を刻んだ美しい仕上がりとなっています。同じ場所から他にも数百点の板石塔婆が見つかっています。